

(特非) 漁師の NPO

日本沿岸に来遊する絶滅が危惧される サメ類の実態調査

イベントの 延べ参加者数	120 人
イベント参加者 の満足度	80%
活動の全体目標 に対する達成度	80%



セミナー開催

◆成果と工夫したポイント

●成果

本調査では、年間 300 回以上のモニタリングを実施して、データベースを作成した。得られた知見は、生物保全のための基本情報となる。また、イベントを通し、地域住民の海洋生物保全に対する関心が高まった。

●工夫

漁業関係者と協働体制を築くことによって、調査活動をスムーズに行うことができた。

課 題

近年、多くのサメ類で絶滅が危惧されているが、実際は、その生態や生息状況はほとんど明らかにされておらず、保全策を講じる上で支障がある。

目 標

室戸岬周辺に設置された大型定置網において、サメ類の実態調査を行う。調査結果は迅速に公表し、情報の共有を目指す。その一環として出前授業などを開催し、地域全体で保全に取り組む持続可能な保全活動を目指す。

活動内容

サメ類の実態調査は漁協が休みの日を除いて毎日漁港に赴き、漁獲されるサメ類の、現地調査を実施した。調査ではサメ類の種類、来遊時期、来遊（漁獲）数、体サイズ組成などを記録し、DNA のサンプリングも行った。また、サメ類の専門的な知識を習得するため、有識者と協働体制を構築した。加えて、調査で得た結果を広く発信するために、地域の小学校やイベントに赴き、サメ類をはじめとした海洋生物保全の現状を解説した。



計測写真

達成できなかったこと

夏季の台風などの悪天候によって、海がしけて出漁できない日が続き、思うように調査頭数が伸びなかった。

今後の展望

本活動により、当該地域におけるサメ類調査の認知度が大きく高まった。今後も継続して調査を行いたい。